

11. 医学部

(1) 医学部の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・	11-2
(2) 「教育の水準」の分析	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	11-4
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	11-4
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	11-12
【参考】データ分析集 指標一覧	・ ・ ・ ・ ・	11-15

(1) 医学部の教育目的と特徴

1 教育目的

(医学科)

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍し、指導的な役割を果たす優秀な臨床医・医療専門職、世界に誇る独創的な学術研究を推進し次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする。京都大学医学部は、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人材、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察でき、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動できる人材を育成する。また、これを人類すべてに発信できる豊かな国際性を養うことも我々の使命である。

(人間健康科学科)

・高度な知識と高い技術を兼ね備えた優れた医療専門職を養成するとともに、健康科学領域での活動並びに教育・研究への新たな道を拓く人材を育成します。

・独創的精神の涵養に努めるとともに、自己創意に富んだ実行力溢れる人材を育成します。

・疾病を科学的に捉え、その病因を学問的に追求し、解明できる人材を育成します。

・豊かな教養と高い倫理観を兼ね備え、他者との豊かな共存関係を築き上げられる、そしてリーダーシップに優れた人材を育成します。

・積極的に社会に貢献しようとする意思と、行動力のある人材を育成します。

・国際的視野を鑑み、複雑化するグローバル化に対応できる人材を育成します。

2 特徴

(医学科)

京都大学医学部は京都帝国大学医科大学として、明治32(1899)年に創設され、以来百年余の歴史を経て、輩出した卒業生は約13,000人、医学博士授与数は約11,800人を超えている。現在も我が国の医学界をリードする高い学術研究水準を維持している有数の医学研究教育施設であり、入学者にも研究志向の高い者が多い。

京都大学医学部医学科では、「対話を根幹とした自学自習」を重視した教育環境のもと、上記の目的を果たすため、医学部医学科学生の卒業時の教育成果(Outcome)を定め、専門的基礎知識と総合的判断力並びに国際性を養うことを目的としている。以上は、京都大学の基本的な目標として掲げる「豊かな教養と人間性を備え、地球社会の調和ある共存に貢献し得る、優れた研究能力や高度な専門知識をもつ人材」の育成に繋がるものである。

卒業時の教育成果 (Outcome)

(1) 高度で先進的な専門知識と技術をもった医師、医療専門職、研究者

(2) 幅広い教養を持ち感性豊かな人間性、深い洞察力、社会的規範についての優れた意識を持った人材

(3) コミュニケーション能力に優れ、患者との良好な関係を築いて患者本位の医療を行い得る医師・医療専門職

(4) 優れた倫理観を備えた人材

(5) チーム医療の中で協調しながら指導的役割を演じることができる医師・医療専門職

(6) 保健、医療、福祉分野における指導的な専門職を担う人材

(7) 自己啓発と問題解決能力を備え、国際的な環境で活躍できる創造的人材

(人間健康科学科)

健康科学教育

健康とは、単に病気でないという医学的な状態だけでなく、身体的、精神的、そして社会的、さらにはスピリチュアル的にも良好な状態のことです。本学科では、「健康について科学すること」を教育テーマの中心として取り上げ、新入生から『人間健康科学』において、「健康の科学」に関する基盤形成をしていきます。また、4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健・医療・福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チーム医療教育

移植医療や再生医療などの高度先進医療やリハビリテーションのみならず現在の医療は、チーム医療を中心に進められるべきであり、チームに積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職スタッフが求められています。本学科では、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上に立って高度先進医療に対応でき、さらに国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

コース横断型教育

本学科では、複数のコースが同じ科目を履修する「コース横断型教育」を積極的に取り入れて行っています。健康や医療に関する課題や、メディカルスタッフが担うべき今後の役割などについて、異なる観点から意見を出しディスカッションすることにより、それぞれの立場を理解することのできる人材を育成します。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5211-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5211-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 5211-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 5211-i3-3～7）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（医学科）

- 学部教育としての専門的実践力、その医学的知識の基礎、医師として活動する前段階として身に付けるべき能力を考慮し、2016年度新入生よりカリキュラムを開始した。新カリキュラムでは、モデル・コア・カリキュラムを再点検し、基本的項目の漏れをなくすとともに、各専攻分野が担当している科目内容の重複回避を行って時間的余裕を作り、医学部医学科生の卒業時アウトカムのなか

で特にアドバンストと考えられる、1) 独創的な発想と新しい課題への挑戦と
2) グローバルな活躍に関しての教育方略を考慮した。具体的には、2～4年
次の火曜午後に専門科目を開講せず、学生が研究室などで活動できる時間を作
った。[3.1]

- ○ 全学共通科目で文理広範囲に亘る教養を積むと同時に、医学概論・生物
系授業・早期体験実習等を通して医師・医学研究者としての将来像を描く。全
学共通科目（教養科目）のうち自然科学科目群について、従来必修科目14単位
及び選択必修科目4単位以上（講義科目から2単位以上、実験・実習科目から
2単位以上、「数学」分野の科目2単位以上、計20単位以上の修得を義務づけ
ていたが、平成30（2018）年度入学者より条件を変更し、平成31（2019）年度
入学者からは必修科目8単位及び選択必修科目4単位以上、「数学」分野の科
目2単位以上、計18単位以上とし、選択必修科目についても講義科目4科目8
単位からの選択として条件を緩和し、学生の負担を軽減するとともにより自由
な選択ができるようにした。[3.4]

（人間健康科学科）

- 人間健康科学科では、カリキュラムの体系的な構築のため、各科目のシラバス
をディプロマポリシー、カリキュラムポリシー（教育目的）に即したものとす
るため、教務・教育委員会にて検討し、適宜修正を行った。[3.1]
- 人間健康科学科では、全学共通科目を履修して幅広い教養を身につけ、科学的
思考の基盤を形成すると同時に、初年次教育科目「人間健康科学V」を通じて、
附属病院と連携し、社会の課題を踏まえて、課題発見・解決能力を育成する取
組を行っている。[3.2]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 5211-i4-1～2)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 5211-i4-3～5)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 5211-i4-6)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料

京都大学医学部 教育活動の状況

(別添資料 5211-i4-7)

- ・ 指標番号 5、9～10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(医学科)

- 4年次に必修プログラム「マイコース・プログラム」において、7週間から3か月の期間、学生自身が希望する基礎系、社会健康系、臨床系の国内外の研究室において研究活動を行っている。基礎研究への興味のある学生に対しては2016年度より選択プログラム「MD研究者育成プログラム」を設け、早期から基礎医学研究の基本を学ばせている。また、臨床実習では将来さまざまな専門分野に進めるようにほぼ全ての診療科での実習を附属病院および学外実習病院で経験させている。[4. 1]
- 国際化の面では毎年40名以上の学生が短・中期の留学を行うとともに、コミュニケーションとプレゼンテーションを中心とした医学英語授業、外国人教員による英語講義も行われている。[4. 1]

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、初年次から「人間健康科学V」で附属病院での実習を実施している。また、各コースの臨床実習では附属病院の他、外部の病院でも実習を行い、連携して実践的な学修プログラムを実施している。[4. 1][4. 2]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5211-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5211-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 5211-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 5211-i5-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(医学科)

- 学務委員会の学年担当教員が単位取得状況の芳しくない学生や反復留年者など

の個別学生と面談し、履修指導を行っている。面談結果は学務委員会へ報告される。また、臨床実習学生についてはメンタリング制度を実施し、約4名の学生に対して教員1名がメンターを担当し、指導・サポートを行っている。

[5.1]

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、年度当初にガイダンスを実施し、学習支援を行っている。

[5.1]

- 人間健康科学科では、特に新入生に、3名のチューターとの顔合わせも実施し、入学時から学習支援を充実させ、学習意欲の向上もはかっている。チューターはコース配属までの1年半に渡り交替で定期的に面談を実施し、学生のサポートを行う。コース配属後は各コースのチューターが卒業まで支援を行う。[5.1]
- 人間健康科学科では、平成30(2018)年度にはSTEP(学生カルテ)システムを導入し、面談の記録を残すことで、チューターが交替しても学生の状況を継続的に把握することができるようになった。また、STEP上の成績表を参照しながら面談を行うことで、学習成果の可視化をはかっている。[5.2]
- 人間健康科学科では、障害等で講義時に合理的配慮が必要な学生に対し、障害学生支援ルームと連携して対応を行っており、平成30(2018)年度は1名、平成31(2019)年度は2名の学部生に対して支援を実施した。[5.0]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準(別添資料5211-i6-1※~3) ※2019年度改訂版
- ・ 成績評価の分布表(別添資料5211-i6-4~7)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料(別添資料5211-i6-8~9)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(医学科)

- 各科目の評価については、2015年度に京都大学におけるGPA制度導入を視野に入れた成績評価に改定し、GPA制度については2016年度入学生から導入している。[6.1]
- 2016年度から開始した新カリキュラムにおいては学年制をとれる進級要件に変更した。進級判定を検討するために、「学年の担当教員による進級判定会議」を設け、各担当科目の成績だけでなく担当科目以外についても学生の進歩に関

京都大学医学部 教育活動の状況

する情報を共有できる体制とした。[6.2]

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、成績評価の基準及び成績評価に関する申立ての手続きをスクールライフ（学生便覧）で学生に周知している。また、成績評価の分布等を教務・教育委員会にて確認し、教育効果につき検討を行っている。また、GPA制度の導入により、学習成果の可視化をはかっている。[6.2]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5211-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 5211-i7-3～5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(医学科)

- 卒業試験は、2014年度まで行われていたが、知識のみを問う卒業試験の必要性和評価妥当性について検討を行い、2015年度6年次の学生から廃止し、臨床実習における評価方法を変更して、知識・技能の評価と態度面の評価を実施している。さらに、知識・技能・態度面における学生の進歩を最終確認するために、臨床実習後 OSCE (Post-CC OSCE) を2017年度から試験的に開始し、2020年度からは卒業要件とすることに決定している。[7.1]

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、卒業判定については教授会で審議し、その後、医学研究科専攻長会議でも審議の上、決定する判定体制を整えている。[7.1]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5211-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）

- ・ 入学定員充足率（別添資料 5211-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（医学科）

- 医学研究者を目指す学生を得ることを企図し、世界をリードする医学研究者の養成を目指して、2016年度から一般入試とは別に研究志向を持つ学生を入学させる特色入試（推薦入試）を開始した。特色入試での入学者にはMD研究者育成プログラムへの参加を義務付け、MD研究者育成奨学金（月額40,000円）を支給し、将来的にMD-PhDコースによる基礎系大学院への進学を推進している。[8.1]

（人間健康科学科）

- 人間健康科学科では、平成30（2018）年度にアドミッション・ポリシーの見直しを行った。入試では、一般選抜以外にも特色入試・2年次学士入試を実施し、ポリシーに沿った多様な学生の受入に努めている。また、毎年全国で実施されている京大交流会に教員を派遣し、志願者の増加をはかっている。さらに、特色入試では出願要件を一部緩和し、より多くの志願者が集まるよう努力している。その結果、2年次学士入試の志願者は平成30（2018）年度の1名から平成31（2019）年度は29名に増加した。また、特色入試の志願者も平成31（2019）年度の66名から令和2（2020）年度は79名に増加している。[8.1]（別添資料 5211-i8-3「2019年度京都大学交流会参加教員一覧」）

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料 5211-iA-1）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（医学科）

- 入学時の新入生セミナーにおける先輩からの留学体験の紹介や、早期体験実習IIでのキャリアパス教育により、低学年から海外の大学での研究を推進してい

京都大学医学部 教育活動の状況

る。[A.1]

- 4年次のマイコース・プログラム、臨床実習（イレクティブ実習）での海外留学については、平成28（2016）年度44人から、平成30（2018）年では50人に増加している。[A.1]

- 学生の海外派遣については、医学部同窓会組織である芝蘭会の学事助成事業による留学助成制度がある。[A.1]

（人間健康科学科）

- 人間健康科学科では、所属する2名の外国人教員が、全学共通科目を開講しており、国際化をはかっている。[A.1]（別添資料5211-iA-2「医学部人間健康科学科外国人教員担当全学共通科目シラバス（2019年度）」）

<選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（人間健康科学科）

- 人間健康科学科では、1回生から専門基礎科目「人間健康科学V」において附属病院と連携し、各部門の見学・外来体験実習・車椅子体験実習等を行っている。さらに、2回生以降の各コース実習では、附属病院だけでなく、近隣地域の外部病院で実習を行い、連携して教育活動を行っている。[B.1]（別添資料5211-iB-1「専門基礎科目「人間健康科学V」シラバス及び実施要領（医学部人間健康科学科、2019年度）」）

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（医学科）

- 毎年開催している京都大学医学教育ワークショップ（KUROME）において教育に関するFDを持ち、全教授のコンセンサスを形成して教育方針の策定を始め、教

京都大学医学部 教育活動の状況

育に関する課題を全員が共有し解決に向けて審議検討している。平成 30 (2018) 年度は新カリキュラムにおける課題、臨床実習における学生の医行為等について検討を行った。[C.1] (別添資料 5211-iC-1「第 23 回京都大学医学教育ワークショッププログラム (2018 年 12 月実施)」、別添資料 5211-iC-2「第 11 回 Health Science Café」(人間健康 FD 討論会) ポスター (2019 年 3 月実施))

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、毎年テーマを設定して FD 討論会を実施している。平成 30 (2018) 年度は認証評価や IR 等について実施した。[C.1]

<選択記載項目 D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所 (別添資料 5211-iD-1)
- ・ 指標番号 2、4 (データ分析集)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、大学を卒業後に社会人として就業した方を主な対象とした 2 年次学士入試を実施し、リカレント教育の推進に寄与している。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5211-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5211-ii1-1）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 医学課程卒業者の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 看護学課程卒業者の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（医学科）

- 第3期中期目標期間における医学科卒業生の現役での医師国家試験合格率は2016年度95.5%、2017年度97.3%、2018年度93.6%と、高い水準を保っている。

[1.2]

（人間健康科学科）

- 人間健康科学科では、卒業時に看護師・保健師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士の国家資格試験を受験することで、学習成果の可視化が図られている。特に看護師・保健師・作業療法士では全国平均を上回る合格率を出している。不合格者についても、大学院進学後に資格に合格することで、教育成果として評価される。 [1.2]（別添資料 5211-ii1-2「医学部人間健康科学科国家試験合格率一覧（2018年度）」）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（医学科）

- 第3期中期目標期間において、卒業と同時に大学院へ進学し研究者を目指す学生は、第3期中期目標期間で6名となっている。また、学部卒後2年以内に大学院に進学した者は、MD-PhDコースも含めて11名にのぼる。 [2.1]

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、卒業後、約4割の学生が医療機関に就職するが、そのうち半数以上の学生が附属病院に就職する。また、附属病院以外でも実習で訪れた地域の病院に就職する学生も多く、地域医療に大きく貢献している。[2.1]

<選択記載項目A 卒業(修了)時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 5211-iiA-1~2)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(医学科)

- 2018年度医学科卒業生へのアンケートでは、「6年間の医学部の教育についての程度満足していますか?」という問いに対しては「とても満足している」「まあまあ満足している」の回答が合わせて87%、「本学の授業にはどの程度満足していますか?」という問いに対しては、専門科目である「レベル教科」「システム教科」「臨床実習」について、「とても充実していた」「まあまあ充実していた」の回答がおおむね80%を占めている。[A.1]

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、卒業時にアンケート調査を実施し、進路だけでなく、資格の取得状況やディプロマポリシーの達成度等も調査の上、確認している。特に、ディプロマポリシーの「他職種との協働」、「コミュニケーション」においては、7割以上の卒業生が「身につけており自信がある」と回答しており、概ね目標が達成されている。[A.1]

<選択記載項目B 卒業(修了)生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業(修了)後、一定年限を経過した卒業(修了)生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料(別添資料 5211-iiB-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

京都大学医学部 教育成果の状況

(医学科)

- 2018 年度に実施した 2016 年度卒業生へのアンケート調査では、「本学での学習により身についた、卒業後に役立った能力を教えてください」という問いに対して「たくましさ（問題解決力）」「コミュニケーション能力」「専門的な知識と技術力」「判断力（知識・技能を思考や判断につなげられる力）」「国際性（外国のこと、相手のことを理解する力、及び日本のこと、自分のことを伝える力）」等の回答が多くあった。[B.1]

<選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 5211-iiC-1）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

(人間健康科学科)

- 人間健康科学科では、臨床実習先に在席する卒業生を含む指導者との懇談会で意見交換・意見聴取を実施している。
懇談会では、2020 年度からのカリキュラム変更に伴う実習方法等の認識を共有した。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。